

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい

- 1 英単語をカクジツに覚える。
- 2 円のハンケイを計算する。
- 3 シュクフクの言葉をかける。
- 4 返答をホリユウする。
- 5 過ちをくり返さない。
- 6 温厚な性格の持ち主。
- 7 形状記憶のワイシャツ。
- 8 自身の潔白を証明する。

問二 次の空欄に体の一部をあとのア～オから一つ選んで、それぞれ記号で答え、慣用句を完成しなさい。

- 1 □を洗う || 悪い行いを改め、まじめになること。
- 2 □を結ぶ || 同じ目的のために互いには協力すること。
- 3 □を並べる || 対等の位置に立つこと。
- 4 □をくくる || 覚悟を決めること。
- 5 □を明かす || だまして驚かせること。

ア 鼻 イ 肩 ウ 手 エ 足 オ 腹

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

きみたちが思いきり楽しめるような空間が、住んでいるまちにありますか。テレビアニメの『ドラえもん』を、きみたちの多くは見たことがあるでしょう。一九六九年に藤子・F・不二雄による漫画連載が開始され、一九七三年から断続的にテレビアニメ番組も放送されており、二〇一三年八月現在までつづいている国民的アニメです。

『ドラえもん』の主人公たちは、しょっちゅう、近所の土管のある空き地で遊んでいます。こんな空き地は、一九六〇年代から七〇年代にかけては多くの都市に見られました。一九六三年生まれの私は、**一**『ドラえもん』を同時代で体験したのですが、私の住んでいた東京の池袋の周辺にも多くの空き地があり、そこで近所の子どもたちと草野球や缶蹴りなどをして遊んでいました。

そのような空き地は、将来に何かを開発するためのあいだの、暫定的な土地の使い方に過ぎなかったのです。土管も、子どもが遊ぶためのものではなく、その土地に建物をつくるときに地面に埋めて使うためのものだったのです。それにもかかわらず、子どもたちは**二**、その空間を自分たちが共有しているかのように自由勝手に使っていたのです。それは、本来的な目的とはまったく違った使い方でしたが、子どもたちにとっては、自分たちによって管理された、自分たちのための空間であるかのように思えていたのです。『ドラえもん』のストーリーをテンカイするうえでも、空き地はとても重要な役割を担っていました。そこは、大人という管理者から解放された、子どもによる民主主義的な話し合いなどがテンカイされる場であったのです。

富山県高岡市に市民の憩いの場所として一九九六年につくられた「おとぎの森」という公園があります。ここに「ドラえもんの空き地」という空間があります。しっかりと土管もついてあります。それは、意図せずにつくられた子どもたちの空間である空き地ではなく、計画されてつくられた空き地です。さて、この空き地は、**三**空き地なんでしょうか。ドラえもんや、**B**私が子どもの頃に遊んでいた空き地とは、何かがちがうように感じます。どこがちがうのでしょうか。

「ドラえもんの空き地」は、高岡市役所が計画をし、「森のふれあい倶楽部」が整備と管理をしています。それを計画するうえで、住民の意見は多少聞いたかもしれませんが、この本の読者の若いきみたちや子どもたちの意見をどれほど聞いたのでしょうか。

一方で、『ドラえもん』に出てくる空き地、もしくは私が小学生の頃、三角ベースなどをして遊んでいた豊島区の空き地は、IVビルを建てるまでの暫定的な状況にあったので、もちろん空き地として計画されていませんでしたし、整備もされていませんでした。釘がついたままの板や、それこそ土管などが放置されていて、安全管理もされていなかったのも、ケガをするキケンもあつたかもしれませんが、その空間は子どもたちが好き勝手に使うことを可能としました。

もちろん、空き地で遊ぶことは禁じられていました。しかし、それは建前で、子どもたちは怒られても、大人たちの目を盗んで遊んでいたものです。そのようなときにこそ、いろいろとおもしろいアイデアを思いついたり、抜け目なさなどを学んでいたように思います。そして、なにより、与えられた条件を最大限にいかして楽しむためのaが培われたかと思えます。

『二〇世紀少年』という浦沢直樹による漫画作品では、一九六九年に主人公のケンヂが同級生の仲間たちと秘密基地を空き地の原っぱにつくることから、物語がテンカイしていきます。この秘密基地は、まさに小学生にとって誰からもじやまされずに、自分たちが管理する自分たちの空間です。それは、大人から押しつけられた空間ではないのです。しかし、一九六九年にはつくられた秘密基地は、現在ではなかなかつくれないかと思えます。それは、そのような子どもたちが自由に秘密基地をつくれるようなすきまが、社会からなくなってしまったからです。

(服部圭郎 『若者のためのまちづくり』より)

問一 線部①～③のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 空欄部I、IIにあてはまる適切な語句をあとのア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア ほんとうに イ あたかも ウ しだいに
エ あくまで オ ちようど

問三——線部A「暫定的」とあるが、その意味として最も適切なものをあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 永久的 イ 一時的 ウ 部分的 エ 全体的

問四——線部B「私が子どもの頃に遊んでいた空き地とは、何かがちがうように感じます」とあるが、富山県高岡市の公園の空き地と私が子どもの頃に遊んでいた空き地とは何が違うのか、それぞれがどのようなものを具体的に説明して答えなさい。なお、解答には次の語句を必ず使いなさい。

計画 意図

問五——線部C「まさに小学生にとって誰からもしゃまされずに、自分たちが管理する自分たちの空間」とあるが、同じ内容を言い換えた部分を本文中より四十一字でぬき出さない。

問六——線部D「すきま」とあるが、「すきま」とは何か、本文中より三字でぬき出さない。

問七 空欄部 a を補う語句として、最も適切な語句をあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 行動力 イ 適応力 ウ 創造力 エ 忍耐力

問八 本文の内容の説明として最も適切なものをあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア** 従来、「空き地」は、子どもが自由に使用することを目的としている場所である。
- イ** 「ドラえもん空き地」は、高岡市民全員の要望として整備された施設である。子どもは自由な遊びの中でずるさも含めた知恵を身につけていくものである。
- ウ** 現代の日本社会では子どもの「秘密基地」を作るための必要性が高まっている。
- エ** 現代の日本社会では子どもの「秘密基地」を作るための必要性が高まっている。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

祖母の意識がほとんどなくなったのは春だった。三日に一回くらい意識が戻ってくる時があったが、ほとんどしゃべれなかった。ああ、誰々ちゃん来たの、と家族の名前を言うくらいだった。

その夕方、祖母の手を握っていた。冷たい手だった。点滴の針であざができて青黒く変わった色をじっと見ていた。口のはしに白く乾くよだれさえも愛しかった。ふいに、祖母が言った。

「アロエが、切らないで、って言ってるの。」

細い、途切れ途切れの声で、はじめは何のことかわからなかった。

「アロエが、駐車場の、陰で、車に、ふまれて、痛いって。」

「にきびも傷も、なおすから、花も咲かせるから、切らないであげて。」

祖母は夢うつつでまるで **a** のように、少しずつ、そう言った。

私はぞうつとした。なんで私だけこれを聞いてしまったんだろう？ と思った。

「それでね、おばあちゃんはあるにはわかんと思うの、そういう感性がね。植物ってそういうものなの。ひとりのアロエを助けたら、これから、いろんなね、場所だね、見るどんなアロエもみんなあんなのことを好きになるのよ。植物は仲間同士でつながっているの。」

一気にそう言うと、祖母は眠った。

すぐに母と妹が看病の交代でやってきたけれど、私はどうしてもそのことが言えなかった。のどが詰まったようになって、うまく言葉が出なかった。じゃあ帰るね、と病院を出た。外は晴れて、月が出ていた。みんな優しい顔で家路を急いでいた。車のライトが夢の中の景色みたいに暗い道を照らした。私は無言で祖母の部屋に行き、遅くなってごめん、といいながら植物たちに水をやった。電気をつけたら部屋にちりばめられている祖母のささやかな人生が蛍光灯の真つ白い光に浮かび上がった。ふわふわの座ぶとん、クリスタルの小さな花瓶。筆と硯、きちんとたたまれた白いエプロン。海外旅行で買ってきた異国情緒あふるるおみやげが並んだガラスケース、眼鏡、文庫本、小さな金の時計。古い紙のような、祖母の匂い。私はつらくな

って電気を消した。するとガラスの向こうには植物たちが息づいていた。外の明かりにふちどられるように、生き生きと緑色だった。さっきやった水の滴しずくがきらきら輝かがやいていた。暗い畳たたみにしっと座あってそれを見たら、なんだか少しずつ楽らくになってきた。これはひとりの人が生きてきたあたりまえの足跡あしあとで、悲しくも苦しくもない、どちらかといえば幸せないものなのだという気がしてきた。悲しみににごった目で見た第一印象で決めるものではないと植物が教えてくれたような気がした。ただ陽を求め、水を求め、愛を求めて生きているだけの美しい生物たちが。

私は家に帰ると、玄関げんかんから中に入らずに庭の門の鍵かぎを開けて物置きに行き、シャベルとトロツコを出してきた。そして再度玄関脇わきに戻もどり、アロエをいいいに土から掘り出した。根も入るとすごい大きさになり、素手すてだったのでとげが痛いたかったが、なんとか運んで、庭の昼間陽当たりがいいところに植えた。春の大きな月のおぼろ②な明かりに照らされて、植え替かえの泥どろにまみれたアロエは生命の力を発散はつさんしていた。(一) 化して「ありがとう」と言っていると言いたいところだったがそんなものではなくて、ただひたすらに生きてあちこちに根をはり、葉を広げていた。それにまた私ははげまされる思いがした。

(中略)

たまの休日、だんなが熱をだして妹が来られなくなったのでひとりで旅をすることにした私は、そう、その山の中で何かの気配を感じた。祖母が死んで初めての冬だったが、**b**のように遠く思えた。冬のいやみなほどにオレンジな西日に激しく照らされて、私は目を細めてあたりを見回した。なんとなく優しいまなざしで、どこか熱くて、懐なつかしいものにそっと包まれているような感じがした。

もしかして祖母の幽霊ゆうれいが見えるのではないかと期待した。幽霊でもいいから会いたかったのだ。しかし、私の目に映ったのは、小さな民家の庭にたくさん、ぞっとするほどたくさん、ジャングルのように茂しげっているアロエだった。

c アロエは陽を受けて、私に何か言いたそうにしているように思えた。とげとげした肉厚の葉を冬の空に高く広げ、重なりあい、いくつもの赤くごつごつした花を奇妙きみょうに咲かせて、生きている喜びを伝えようとしていた。アロエの愛情に包まれて、私は陽の光の中であたためられているような気がした。そうか、こうやってつながりができていくのか、もうアロエは私にとってどこで見ても見る度にあたたかいものや優しいものにつながっていく。

D どのアロエも私には等しくあの夜に植え替えたアロエの友達だ。人間と変わらずに縁えんができていく、こうしていろいろな植物と私はお互たがいに見つめあっていくのだ、そう思った。祖母から私が受け継ついだものは、たとえ根拠こんきよのない迷信のようなものであっても確かに役立やくだっていくその力、よく言われる「みどりのゆび」なのだった。この才能があれば植物はその生命をこの腕うでの中でぞんぶんに輝かがやかせることができるはずだった。こうやってこの仕

事について人々と私もまた、つながっていくのだ。

昔はそのとげとげを憎らしく思い、日焼けの時にしか使わないのにとぞんざいに扱ってきたその葉に、私は手袋をはずしてそっと触れた。若い緑色はまるで **c** のように輝き、葉は絹のようになめらかにひんやりとしていた。 **d** のように元気を出して、私は山道を登っていった。

(「みどりのゆび」吉本ばなな)

問一 ――線部①～③の語句の意味として適切なものをそれぞれあとのア～エから選び、記号で答えなさい。

① 異国情緒

ア 日本と全く同じである イ 外国の雰囲気がある ウ 外国で売られている エ 外国から輸入した

② おぼろな

ア まぶしい イ まっ暗な ウ ぼんやりとした エ はっきりとした

③ ぞんざいに

ア すばやく イ ていねいに ウ ゆっくりと エ 乱暴に

問二 ――線部A「ない」と同じ用法の「ない」として適切なものをあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 昨日買ったはずのお菓子がないことに今きづいた。

イ きたない部屋をきれいにするようにといわれた。

ウ 私の知らない音楽家の曲をきいた。

エ この絵は美しくないと言われてしまった。

問三 ——線部 **B** 「これはひとりの人が生きてきたあたりまえの足跡」とあるが、そこから分かる祖母の性格や特徴を説明したものととして、適切なな
いものをおの**A**、**E**から一つ選り、記号で答えなさい。

- A** ペンや鉛筆だけではなく、毛筆をすることがある。
- イ** ものを丁寧にお扱ひ、大切につかっおり整理せいとんができておる。
- ウ** 植物を育ており、手入れがしつかりと行きとどいておる。
- エ** 自分のおものと他人からもらったものを区別して、べつべつにしまつておる。

問四 空欄部（**ハ**）に入る語句として、最も適切なものをおの**A**、**E**から一つ選り、記号で答えなさい。

- A** 擬音 **イ** 擬態 **ウ** 擬人 **エ** 隠喩

問五 ——線部 **C** 「アロエは陽を受けて、私に何か言いたそうにしておる」とあるが、アロエの言いたこととはなにか。本文から七字でぬき出しな
さい。

問六 ——線部 **D** 「どのアロエも私には等しくあの夜に植え替えたアロエの友達だ」とあるが、なぜそのように思うようになったのか。本文中の祖母
のことばを使って五十字以内で答えなさい。

問七 ——線部 **E** 「縁」とはどいうことか、本文中より四字でぬき出して答えなさい。

問八

文中の空欄部
で答えなさい。

a

イ

d

のあとにはすべて「のように」となっている。空欄にあてはまる適切な表現をそれぞれあとのア～エから選び、記号

- ア 人と握手をしたあと
- イ もう何年も前のこと
- ウ 宝石
- エ 誰かの言葉を聞き取るか

問題は以上です。